



曳馬図絵馬 1

若山神社 絵馬

(わかやまじんじゃ えま)

若山神社は、もと「西八王子社」または「牛頭天王社」といわれ、祭神はごすてんのう素盞鳴尊すさのおのみことです。社伝によると、飛鳥もんむ時代の文武天皇の時代、大宝元年(701)に僧行基ぎょうきが天皇の勅を受けて勧請したとされ、この地の字名あざより現在の社名となりました。

神社所蔵の小絵馬は戦時中に焼却され、今は大絵馬五面だけが残ります。いずれも江戸時代のもので、そのうち一面は「東大寺村おかげ踊り図絵馬」です。山城から摂津を経て播磨に伝播した文政のおかげ踊りの伝播経路を裏



曳馬図絵馬 2

付けるものとして、平成16年に大阪府の有形民俗文化財に指定されています。

①^{ひきうます}曳馬図絵馬1は、四面のうち最大のもので、ひときわ祈願・信仰心の強さを感じられます。伝統的な図柄で、迫力のある仕上がりになっています。

②^{せいぎよ あんど}曳馬図絵馬2は、馬を制御し、安堵して馬を曳く馬丁が描かれています。^{ばてい}鮮やかな彩色と穏やかな作風です。

③^{えんこうじょうばず}猿猴乗馬図絵馬は、猿が神官のいでたちで馬に乗るという奇抜な発想で、細かい描写となっています。

曳馬図絵馬2には、右三ツ巴紋と木瓜紋、猿猴乗馬図絵馬には右三ツ巴紋が描かれています。

④^{たけとらず}竹虎図絵馬は、他の三面とは絵の内容や表現が異なり、円形画面と共に独自性が見られます。

以上、四面の絵馬は、制作年や制作者が明記されており、江戸時代の人々の当神社への厚い信仰と願いが推量できる民俗資料として町指定文化財にふさわしい作品となっています。

平成30年1月15日に町指定文化財第7号に指定されました。



猿猴乗馬図絵馬



竹虎図絵馬